



# 富士山国有林における 近年のニホンジカ被害対策について

## 関東森林管理局 静岡森林管理署

### 管内概要 関東森林管理局 静岡森林管理署

静岡森林管理署は静岡県の中央部に位置し、富士宮市など10市町に所在する約4万7千haの国有林野を管理経営しています。その多くは、東部の富士山の南麓周辺と、西部の大井川や安部川の上流、源流域に分布し、山地災害の防止、水源のかん養など重要な役割を果たしています。

特に、富士山南麓周辺の国有林野の約65%は、富士箱根伊豆国立公園に指定され、優れた自然景観を有する世界的な観光地となっています。また、西部の国有林野の約84%は「南アルプスユネスコエコパーク」に登録されているほか、2ヶ所の「レクリエーションの森」約520haがあり、自然探勝や保健休養の場として多くの人々が訪れています。

#### 所在地

静岡県静岡市葵区駿府町1-120

#### 16市町区域面積

400,841ha

#### うち森林面積

266,615ha

#### うち国有林野

46,648ha

#### 管轄区の関係自治体

静岡市、焼津市、藤枝市、島田市、  
牧之原市、吉田町、川根本町、沼津市、  
富士宮市、富士市、御殿場市、裾野市、  
三島市、長泉町、小山町、清水町

■ 国有林野  
■ 静岡森林管理署

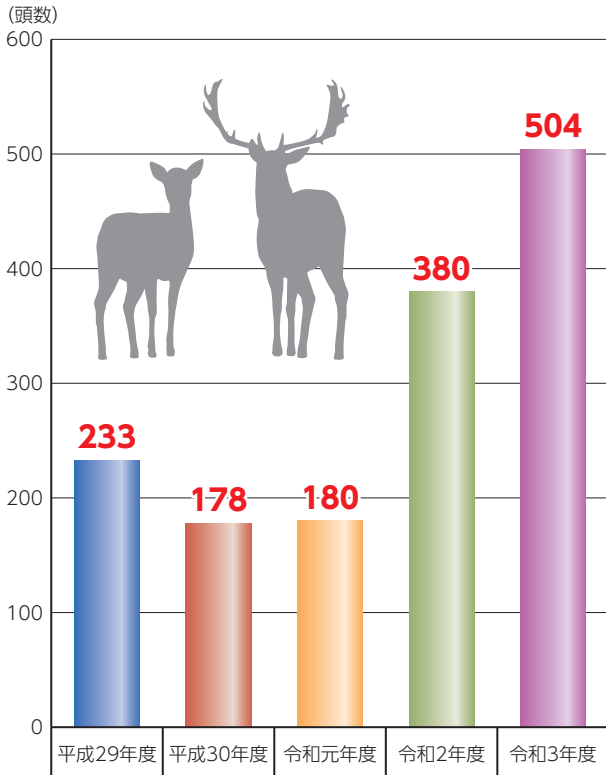


写真1 立木の剥皮被害とその後の枯死

#### ◆はじめに

富士山南麓周辺においては、ニホンジカ（以下「シカ」）による著しい森林被害があり、シカの個体数を低減させる捕獲と植栽地のシカ食害防止柵（以下「シカ柵」）等の設置

図 富士山国有林における捕獲頭数



出典：静岡森林管理署 調べ



写真2 立木を支柱に利用したシカ柵



写真3 シカの通り道を用意した「ブロックディフェンス」

### ◆ 捕獲について

シカをあらかじめ餌付けして誘引し、立入りを制限した林道上の車両内から銃器でシカの群れを全頭捕獲する方法を「シャープシューティング」といいます。平成23年度から委

を組み合わせるなど、その被害対策に取り組んできました。  
しかしながら、依然としてシカによる植栽木の食害、立木の剥皮被害、下層植生の衰退等（写真1）が見られるため、被害対策は粘り強く継続することが求められます。  
富士山国有林における近年のシカ被害対策を紹介します。

発見後、射手が身を隠しながら接近して銃器で全頭を捕獲する方法です。射手1名を含む2名を1班として2班体制で行います。卓越した狙撃技術をもつ者を射手とし、3頭以下の群れを全頭確実に仕留め、警戒

託事業などにより実施してきましたが、誘引場所にシカの大きな群れが見られなくなったために、現在は休止しています。現在、「忍び猟」と「くくり罠」を実施しており、直近の5年間の捕獲総数は1,475頭となっています（図）。  
「忍び猟」は、シカが繰り返し歩いてきた「シカ道」の状態や採餌の痕跡、センサーカメラによる撮影データ等を基にシカの群れを探索し、

### ◆ シカ柵等の設置について

当署では、現地の状況に応じて、シカ柵の設置や、立木への剥皮防止資材の巻付け等を行っています。その際、シカ柵に、動物の噛み切りに強い

心が高く、捕獲しにくくなったシカである「スマートディア」を発生させないようにしています。  
また、シカの生息状況の把握、くくり罠や狙撃箇所の選定、一般入林者の安全の確保等のために、林内にセンサーカメラを設置しています。カメラの通信機能を活用し、シカを探索中の射手等がシカがいる場所へ直行できるよう工夫をしています。

### ◆ おわりに

当署では、シカによる被害が著しい富士山南麓周辺において、今後とも地元自治体等と連携を図りながら被害対策を推進し、静岡県内に生息するシカの個体数の適正な管理に貢献できるよう取り組んでまいります。

新素材である硬質ステンレス入りネットを用いる、立木を支柱に利用する（写真2）、地帯時の枝条を利用する（写真2）、地帯時の枝条を利用するほか、ドローンやセンサーカメラを活用した見回りや、シカ柵への突進を減らすためシカが通る道を用意した「ブロックディフェンス」（写真3）の設置などの試行と工夫をしています。